大阪インターナショナルチャーチ　　アリステア・マッケナ師　　2015/9/13

ヨハネ16：5-33「どんな状況でも喜びを持てる」

16:5 しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。 16:6 かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。 16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。 16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。 16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。 16:10 また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。 16:11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。 16:12 わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。 16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。 16:14 御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。 16:15 父が持っておられるものはみな、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。 16:16 しばらくするとあなたがたは、もはやわたしを見なくなります。しかし、またしばらくするとわたしを見ます。」 16:17 そこで、弟子たちのうちのある者は互いに言った。「『しばらくするとあなたがたは、わたしを見なくなる。しかし、またしばらくするとわたしを見る』、また『わたしは父のもとに行くからだ』と主が言われるのは、どういうことなのだろう。」 16:18 そこで、彼らは「しばらくすると、と主が言われるのは何のことだろうか。私たちには主の言われることがわからない」と言った。 16:19 イエスは、彼らが質問したがっていることを知って、彼らに言われた。「『しばらくするとあなたがたは、わたしを見なくなる。しかし、またしばらくするとわたしを見る』とわたしが言ったことについて、互いに論じ合っているのですか。 16:20 まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶのです。あなたがたは悲しむが、しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。 16:21 女が子を産むときには、その時が来たので苦しみます。しかし、子を産んでしまうと、ひとりの人が世に生まれた喜びのために、もはやその激しい苦痛を忘れてしまいます。 16:22 あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。 16:23 その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。 16:24 あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。 16:25 これらのことを、わたしはあなたがたにたとえで話しました。もはやたとえでは話さないで、父についてはっきりと告げる時が来ます。 16:26 その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです。わたしはあなたがたに代わって父に願ってあげようとは言いません。 16:27 それはあなたがたがわたしを愛し、また、わたしを神から出て来た者と信じたので、父ご自身があなたがたを愛しておられるからです。 16:28 わたしは父から出て、世に来ました。もう一度、わたしは世を去って父のみもとに行きます。」 16:29 弟子たちは言った。「ああ、今あなたははっきりとお話しになって、何一つたとえ話はなさいません。 16:30 いま私たちは、あなたがいっさいのことをご存じで、だれもあなたにお尋ねする必要がないことがわかりました。これで、私たちはあなたが神から来られたことを信じます。」 16:31 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは今、信じているのですか。 16:32 見なさい。あなたがたが散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとり残す時が来ます。いや、すでに来ています。しかし、わたしはひとりではありません。父がわたしといっしょにおられるからです。 16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたが

たは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

導入

「二階の大広間」でイエスは、次のようなことをお教えになりました。

1. 15：1-17で、イエスは、弟子たちとご自身との関係について教えておられます。ご自身に属する人々は、イエスにとどまり、みことばに従いつづける必要があるとおっしゃいます。それは、彼らが実を結ぶためであり、滅びを逃れるためです。
2. 15：18-16：4で、イエスは、弟子たちのこの世との関係についてお教えになりました。弟子たちはこの世ではなくイエスに属するので、この世からは憎まれると弟子たちにおっしゃいました。しかし、御父はこの世のことをあきらめてはおられません。ですから、私たちが福音を携えてこの世に出ていくことを望まれます。

今日は、16：5-33を学びます。ここでイエスは、弟子たちと父なる神との関係についてお教えになります。イエスは、二階の大広間の教えの締めくくりとして、ご自身が父のもとに帰ると改めて弟子たちにおっしゃいます。5節、17節、28節からそのことがわかります。

このとき、御父のもとに帰るためにはイエスが十字架を通らなければならないことに、弟子たちはまだ気づいていませんでした。しかし後になって振り返ってみて、弟子たちはこのイエスの教えを理解することができたでしょう。

私たちも同じです。私たちの身に何かが起こっているとき、その最中は神が何をしておられるのか理解できないことがあります。しかし、後になって振り返ってみると、私たちの上に神の御手があったことがわかるのです。それが私たちの過ちであったとしてもそうです。

では、今日の聖書個所を学び、みことばから神が何を語ってくださるか見ていきましょう。

1. イエスが去られることで、聖霊の来臨が確実になる。（5-7節）

弟子たちは、イエスが去られることを知り、もうお会いできないとわかって悲しみました。しかし、イエスが去られるのは弟子たちのためだとイエスはおっしゃいます。イエスが去られなければ、弟子たちは聖霊を受けることができないからです。

聖霊は、彼らがぶどうの木にとどまり、この世からの迫害を受け入れられるよう弟子たちを助けてくださいます。

イエスはすでに弟子たちにおっしゃいました。聖霊はイエスとまったく同じご性質のお方で、まったく同じように彼らを支えてくださると。たったひとつ違うことは、聖霊はすべての信徒の心に住まわれるので、同時に多くの場所にいることがおできになることです。

これは大きな利点です。

信仰の指導者は、一人の人やひとつのグループしか同時に助けることができません。一方、聖霊は、世界中どこでも信徒のいるところで、信徒をとおして働くことがおできになります。

イエスの働きは、聖霊の働きをとおして続いています。

2. 聖霊の働きに関するイエスの教え（8-15節）

a) 聖霊は、この世に罪を認めさせる。—8-9節

この個所で、聖霊は３つのことをなさるとイエスは明言されます。罪について、義について、そして裁きについて、この世に認めさせます。

まず、「認めさせる」という単語の意味を知る必要があります。これは、「光にさらす」という意味です。「あらわにする」「納得させる」などの意味もあります。

裁判に例えて話してみましょう。裁判所に行ったことはないかもしれませんが、テレビ番組などで見たことはあるでしょう。

イエスを信じる信徒たちが証人で、聖霊が検察官です。ノンクリスチャンは被告です。

ここで聖霊の目的は、有罪と宣告し、被告を刑務所に送ることではなく、救いをもたらすことです。

被告が犯罪を認めれば、検察官はイエスのもとに連れていき、イエスがその被告の代わりに罰を自ら受けてくださいます。

聖霊の働きは、光を当てて、人の心の中にある罪悪感をあらわにすることです。

人の心に潜む罪を暴くのは、信徒を通して働かれる聖霊の働きであることをはっきりさせなければなりません。

聖霊は、幽霊のように教会を飛び回り、罪を突然人に示したりはなさいません。このようなことを心から信じているクリスチャンもいます。その人たちは、「失われた人々に罪を認めさせるよう聖霊を送ってください」と祈ったりします。

しかし、聖霊は新生したひとりひとりのクリスチャンの内に住まわれます。ですから、聖霊が罪を認めさせるには、信徒がイエスについて、また十字架の赦しについて証しなければなりません。

五旬節の日、イエスについての神のみことばが語られるのを聞いて、何千人もの人々がクリスチャンになりました。ペテロが語った言葉が、人々の心になされる聖霊の働きを活性化させたのです。

私たちも福音を伝える努力をしなければなりません。私たちをとおして聖霊に働いていただくためです。

このようなわけで、私たちが聖霊との聖なる関係を築くことが重要になります。私たちが邪魔しなければ、聖霊は働いてくださいます。

9節には、罪が何か記されています。「彼らがわたしを信じないからです。」とあります。

そうです。それは「不信仰」の罪です。失われた罪人を罪に定めるのは不信仰です。

ヨハネ3：18-21を開いてみましょう。

3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。 3:19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。

3:20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。 3:21 しかし、真理を行う者は、光のほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。

神の律法、つまり十戒と人間の良心は、人が犯す罪のいくつかを罪人に認めさせるでしょう。しかし、信徒の証をとおして聖霊が働かれることで、失われた世の中の不信仰の罪が明らかにされます。

人が生き方を改めて、盗みや姦淫をやめても地獄に行く可能性があります。イエスを信じず、人間の罪のために十字架上で死んでくださった御業を信じないからです。

皆さんにはっきりわかっていただきたいことは、聖霊が私たちをとおしてお働きになるという点です。そのお働きとは、人々の不信仰に光をあててあらわにされることです。福音を人々に紹介するのは私たちの役目です。

b) 聖霊は、罪人に「義」を認めさせる。―10節

ここで明確にしておきたいのは、この個所に「不義」ではなく「義」と記されている点です。

では、誰の義について聖霊は私たちに認めさせるのでしょうか。

それは、神の完全な子羊イエス・キリストの「義」です。

イエスが地上に住まわれたとき、この世はイエスが完全で罪のない神の御子であることに気づきませんでした。世間の人々はイエスのことを、神を冒涜する者、律法を破る者、詐欺師などと呼びました。悪霊にとりつかれていると言った人までいます。

ですから、イエス・キリストとその「義」をまったくわかっていませんでした。

聖霊は、イエスが完全に神であり、聖なる神の御子であることを罪人に認めさせてくださいます。

c) 聖霊は、さばきについて認めさせる。―11節

この個所を、使徒24：25にある将来のさばきと混同してはいけません。ここでイエスは、サタンの裁きについて語っておられます。

ヨハネ12：31　今がこの世のさばきです。今、この世を支配する者は追い出されるのです。

イエスは、ご自身の十字架の死によってサタンに対するイエスのさばきが有効となったことを指しておられます。サタンはこの世の君ですが、「敗北した君」です。

サタンはすでに裁かれており、その評決はすでに出ています。残されているのは、イエス・キリストが再臨されるときに起こる、裁きの執行です。

ですから、ここでのイエスの教えをまとめると、次のように言えるでしょう。

ノンクリスチャンが聖霊のお働きを受けると、その人は不信仰の悪を知るようになります。イエス・キリストの義にはとうてい届かないことを認め、この世と悪魔に属しているせいで自分が罪に定められていることを悟ります。

エペソ2：1-3
2:1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、 2:2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も

不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。 2:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

ウォーレン・ウィーズブは注解書でこう述べています。「証は大いなる特権である。同時に深刻な責任でもある。生死にかかわる問題だからだ。私たちは、適切な人に導いてくださるよう、適切な言葉が与えられるよう、そして、イエスに栄光をもたらすことができるよう、聖霊に頼る必要がある。」

d) 聖霊は、信徒をすべての真理へと導かれる。—13-15節

イエスは弟子たちに、聖霊がすべての真理へと導いてくださるとおっしゃいました。

ここで言うすべての真理とは、イエスと父なる神についてです。

聖霊が弟子たちをイエスについてのすべての真理に導いてくださるので、弟子たちはイエスにとどまり、忍耐し、神の栄光のために実を結ぶことができるというわけです。

弟子たちがイエスについて聖霊から教えられたことを証すると、この世は罪と義と裁きについて認めるようになります。

私たちが福音の知らせを告げ知らせれば、イエスが栄光をお受けになります。

聖霊の働きは認めさせることです。弟子たちの役目は証すること、そして教会の働きは、その働きを継続させることです。

聖霊は弟子たちをすべての真理へと導かれました。つまり、イエスについてそれ以上知られていない真理がないということです。みことばに記されていることがすべてです。イエスについて知るべきことはすべて、聖書に書かれています。

ヨハネ14：26と16：13を見比べると、神がすばらしい方法で新約聖書を備えてくださったことが分かります。

聖霊は、イエスが弟子たちに教えられたことを思い起こさせてくださいます。そのおかげで、私たちにはマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書があります。

聖霊が弟子たちをすべての真理に導かれたおかげで、新約聖書の書簡も存在します。

聖霊は、これから起こる出来事も示されました。これは黙示録をはじめとする預言のみことばです。

ですから、神の聖霊の働きは、イエス・キリストとそのことばや、聖書のみことばと何も変わらないことがわかります。

ヨハネ15：26には「御霊がわたしについてあかします」とあります。そして、16：14には、「御霊はわたしの栄光を現します」とあります。

聖書に見られるイエスの教えに反することをするよう聖霊が導かれたという人がいたら、それは誤りです。

聖霊の働くところには、真理がなくてはなりません。

3. イエスが去られることで、喜びに満ちた新しい時代がもたらされる。—16-33節

イエスは、二階の大広間での教えを締めくくられます。まず、弟子たちの気持ちを取り扱われます。

弟子たちは、イエスの教えに動揺し、悲しんでいました。そして、恐れていました。私たちと同じ、普通の人間だったのです。

この個所で繰り返されているテーマがあります。それは、「喜び」です。20-22節、24節、そして33節にこの言葉が登場します。当時の弟子たちは、「喜び」を感じていませんでした。しかし、イエスがそれを変えてくださろうとしていました。

この個所で、弟子たちがどのようにして「喜び」を感じて生きられるかをイエスが説明されます。

イエスは、クリスチャン生活の中で確実に喜びを得る方法を3つ示されます。

a) <u>イエスが説明された原則を理解する。</u>

イエスが16-25節で弟子たちに説明しようとなさった原則は、神が私たちの人生に「喜び」をもたらしてくださるということです。取り替えるのではなく、変えてくださるのです。

どういう意味でしょう。イエスが用いられた妊婦の例を見てみましょう。

出産のときに痛みを引き起こした赤ん坊が、後には「喜び」をもたらすのです。

子を産む母親の痛みを和らげるために、何か別のもので取り替えたのではありません。むしろ、すでにあるものを用いて、それを変えてくださるのです。

クリスチャン人生にも同じことが言えます。神は不可能と思える状況を用いて、神の恵みの奇跡を加え、試練や悲しみを「喜び」に変えてくださいます。

ヨセフの人生は、神が絶望的な状況を「喜び」に変えてくださった一例です。

ヨセフは奴隷として売られ、無実の罪で投獄されました。しかし、神はヨセフの人生を変えてくださり、最終的にはエジプトの指導者となり、人々に食物を与える責任者とされました。それだけでなく、イエスへと続く救い主の家系を存続させる務めも与えられました。

私たちがおかれた状況に「喜び」をもたらすには、神のみこころに従い、神がその状況をとおして成就される目的を受け入れることで、神に変えていただくことです。

この個所で、イエスは悲しむ弟子たちに話しかけておられます。イエスは、またふたたび弟子たちとお会いになる、そのとき弟子たちの心には喜びが満ちるとおっしゃいます。弟子たちは、誰にも奪うことのできない「喜び」を得ます。

私たちはその後の話を知っています。イエスがよみがえられたとき、弟子たちは喜びました。また、五旬節に聖霊が注がれたとき、喜びました。そして今、弟子たちは天国で満ち満ちた喜びを得ています。

b) <u>イエスの約束を信じる。（23-28節）</u>

祈りについてイエスが約束なさっていることは何でしょう。

まず、「その日」とはいつなのかを知る必要があります。

他の聖書個所から、イエスが聖霊の降臨を指しておられた可能性が高いと考えられます。

イエスは、弟子たちがイエスに質問しなくなる日がやってくるとおっしゃいます。弟子たちが御父に直接祈り、御父が彼らの必要をすべて満たしてくださるのです。

イエスはこのように弟子たちに約束されました。そして、その約束を弟子たちは信じなければなりませんでした。御父は弟子たちを愛しておられるので、彼らの願いを聞き届け、すべての必要を満たしてくださいます。

イエスが地上におられたとき、イエスが弟子たちのすべての必要を満たしてこられました。イエスが御父のもとに帰られる今、御父が祈りをとおして弟子たちの必要を備えてくださいます。

二階の大広間で、イエスは祈りを強調され、祈りが実り多いクリスチャン人生の秘訣であることを明かされました。

祈りには「喜び」があります。祈っている時間もそうですが、祈りの答えをいただいたときにも喜びがあります。私たちは皆、十分に祈っていません。もっと祈る必要があります。とくに、教会で一致した祈りがもっと必要です。

c) 「世に勝つ」ことと「平安」を得ること。―29-33節

29-30節で、弟子たちが突然イエスの教えを理解し始めたことがわかります。

弟子たちは、イエスの教えがわかったと言いました。そして、信仰の確信とイエスへの信頼も得ました。

イエスはこれに答えて、つらい時代がやってくると警告されました。しかし、そのつらい時代に彼らが「喜び」を持ち、「世に勝つ」だろうとおっしゃいました。

イエスは、平安を得ることができるのは「イエスにあって」のみであることを明確になさいました。つらいとき、イエス以外の誰にも頼ることはできません。

ジョージ・モリソンは、「平和とは、十分な資源の所有」だと言いました。

イエス・キリストにあって、私たちは必要な資源をすべて得ています。その資源の価値を知ることが重要です。ですから、キリストにとどまらなくてはならないのです。

最後に、イエスはご自身が世に勝ったとおっしゃいました。（33節）

ウォーレン・ウィーズブは注解書に、「私たちは勝利者か征服されるかどちらかである」と記しました。

皆さんは、この世に勝つ方法をご存じでしょうか。

ヨハネ第一5：4でヨハネは語ります。

ヨハネ第一5：4　なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

この世は私たちを征服したいと願います。サタンがこの世を利用して信徒たちを迫害するのはこういうわけです。この世は私たちを世の基準に従わせようとします。私たちが違う基準で生きるのを好みません。

私たちがイエス・キリストに自らを明け渡して、このお方を信じるなら、イエスが私たちを「勝利者」にしてくださいます。

イエス・キリストにある霊的立場を宣言しましょう。このお方が「勝利」を与えてくださると信じましょう。

最後のまとめです。

悲しみを神によって喜びに変えていただくなら、喜びがあります。

神が祈りに応えてくださるとき、喜びがあります。

私たちがこの世に勝つとき、喜びがあります。